

中等教育研究開発室年報 第34号（2021年3月31日発行）別冊電子版
2020年度 授業実践事例

保健体育科 中学校第2学年

ハンドボールにおける戦術とは

授業者 重元 賢史

（校内研究授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 保健体育科（体育） 学習指導案

指導者 重元 賢史

日時	令和3年1月21日（木） 第5限 13:20～14:10
場所	グラウンド（雨天時：体育館）
学年・組	中学校2年男子前半36人（A組12人 B組12人 C組12人）
単元	ゴール型（ハンドボール）
目標	1. 安定したボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる（知識及び技能） 2. 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、仲間との関わり合いの中で、課題解決ができるように工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる（思考力、判断力、表現力等） 3. 積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすることや作戦などについての話し合いに参加しようとするすることができる（学びに向かう力、人間性等）

指導計画（全10時間）

- 第一次 オリエンテーション及び個人的技能の習得 3時間
- 第二次 個人的技能の向上及び集団的技能の習得 4時間（本時3/4）
- 第三次 集団的技能の習得及びまとめのゲーム 3時間

授業について

球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

ハンドボールは、2つのチームがコート内で相互に攻撃と防御に分かれ、敵味方が入り乱れてボールを奪い合い、パスやドリブルを用いてゴールにシュートし得点を競い合うゴール型の集団スポーツである。またハンドボール特有の技術であるパス、ドリブル、シュートや速攻、カットイン攻撃による戦術を個人および集団で駆使して攻防を繰り返し、積極的にシュートして得点を取り合って勝敗を競い合い、全員攻撃、全員守りを基本とするため、守りをかわして得点することが容易ではなく、瞬時の判断で攻め方の工夫をすることが要求される。ハンドボールの特性としては、大きく3つ挙げられる。一つ目は、「走・跳・投」といった基本的な運動要素を発揮することが要求されること。二つ目に、比較的ルールも簡単であり、ボールが小さく、誰にでも容易にプレーすることができる。三つ目に、仲間と協力するプレーがしやすく、チームの連携や作戦による攻撃と防御などが考えやすい。またチームや自分の課題を見つけ、課題解決を図ることによって、練習やゲームを工夫する能力が高まっていくと考える。

本授業では、ハンドボールの3つの特性を理解させながら、基本的な知識や技術を習得させ、練習やゲームを通して楽しさや喜びを感じさせ、また仲間づくりができるように積極的に話し合いやお互いにアドバイスができるような信頼関係づくりも行いたい。

題目 ハンドボールにおける戦術とは

本時の目標

安定したボール操作やボールを持たないときの動きを考えながら、ボールのキープやシュートを狙うことができる。（技能/思考力・判断力・表現力等）

本時の評価規準（観点／方法）

1. ドリブルやパスなどのボールの操作やボールを持たないときの動きを考えながら、ボールのキープやシュートを狙うことができているか。（運動の技能／活動観察）
2. 課題に対して、自己や仲間と気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができているか。（運動における思考力・判断力・表現力等/活動観察, 学習ノート）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】 出欠点呼 本時の説明 準備運動 基本的なボール操作	○集合 ○本時の学習内容を把握し、課題を確認する ○準備運動 ○ゴールを運ぶ ○ボール操作の確認 ・ショルダーパス ・ラテラルパス ・バウンドパス ・とりかご	・健康観察, 見学生徒への指導。 ・課題を理解できているか確認する。
【展開】 グループごとでの活動	○シュート練習 ・ステップシュート ・ジャンプシュート ○2人組でシュート練習 ・DFを1名入れる ○3人組でシュート練習 ・DFを2名入れる ○ハーフコートでの戦術学習 ・ゾーンディフェンス ・6対5での攻守交替ゲーム	・課題意識を持って積極的に取り組めるよう声かけを行う。 ・キーパーがいない四隅をねらうように促す。 ・ゴール方向に守備者がいない位置で、シュートすることを意識する。 ・全体の様子を把握するために、生徒同士でどのように動けば良いか声かけができるよう促す。
【まとめ】 本時のまとめ 片付け	○本時の振り返り ・次時の予告 ・整列, 終わりの挨拶, 解散及び片付け	・気づきを共有する。 ・本時の学習を振り返り, 良い点・課題点などを助言する。 ・次時の予告を行い, 学習への課題を持たせる。
準備物 ハンドボール ビブス マーカー ストップウォッチ 学習ノート		

実践上の留意点

1. 授業説明

ハンドボールの特性としては、大きく3つ挙げられる。一つ目は、「走・跳・投」といった基本的な運動要素を発揮することが要求されること。二つ目に、比較的ルールも簡単であり、ボールが小さく、誰にでも容易にプレーすることができる。三つ目に、仲間と協力するプレーがしやすく、チームの連携や作戦による攻撃と防御などが考えやすい。またチームや自分の課題を見つけ、課題解決を図ることによって、練習やゲームを工夫する能力が高まっていくと考える。

この単元では、ハンドボールの3つの特性を理解させながら、基本的な知識や技術を習得させ、練習やゲームを通して楽しさや喜びを感じさせ、また仲間づくりができるように積極的に話し合いやお互いにアドバイスができるような信頼関係づくりを目指した。

本授業での戦術学習については、基本的なオフェンス・ディフェンスのフォーメーションを理解させ、そこからチームに応じたフォーメーションや作戦を考えさせた。1時間目のオリエンテーションの際に、実際のハンドボールのゲーム映像を見せたことも効果的であり、特に初心者の戦術として、ボールに全員が集まることも少なく、ハンドボールの競技特性として全員攻撃、全員守りの形ができていたように思える。

2. 研究協議より（他教科の視点もあり）

- ・授業の始めに、前回の課題である①安定したボールの扱い、②ゴール前に固まってしまうこと、の2点の確認があり、生徒に主体的に学ぶ機会を与えることができていた。
特に②については、ボードで示され、生徒も実感を伴って聞いているようであった。
- ・シュート練習では、1人練習から3人練習に移るにつれ、シュートを待っている時間の意識が高まっていたように思った。ハーフコートの戦術練習では、輪をおいての練習を取り入れた効果か、しっかりポストの選手をみてゾーンらしい動きができていたと思う。
- ・ハンドボールは、(サッカーや野球にくらべて)生徒たちがまねをしたくなるようなトップ選手がなかなかいない(or いても認知度が低い)ので、良い状態をイメージしながら取り組むことが難しいのだろうと感じた。その意味でも、良いプレーを誉めながら進めていたことは、とても良かったと思う。
- ・戦術等を考えさせる体育という点でおもしろいと思った。
ディフェンスに対する「悪い条件にすればよい」というのは良い発問だと思った。
他にはどういう発問の仕方があるだろうかと考えながら見ていた。
「オフェンスは何をされたらイヤか？」のような立場を変えた発問も面白いのではないかと思った。
- ・他教科との関連した学習
数学との関連して「どこからシュートすればゴールに入れやすいか？」という問題を考えさせるなど、実際の体育の動きと組み合わせると流行の「答のない問題」にできるかもと思った。

